

道徳だより 「清明（せいめい）」

第1号

令和7年4月25日

発行

美川中学校道徳係

* 清明とは、春先の清らかで生き生きとした様子を表した「清浄明潔」という語を略したもの。物が若返り、清々しく明るく美しい季節です。新しい年度を迎え、新しい環境の元に、「心機一転さあ頑張ろう！」という願いを込めて題名としました。

道徳教育について、保護者や地域の皆様に、学校でどんな取り組みをしているのか、子ども達がどのような学習をしているのか、そして授業の後にはどのような思いをもったのかを、この道徳だよりで紹介していきたいと思います。ご家庭でぜひ、お子さんと道徳の時間についてお話する機会を設けてみてください。

○道徳の時間とは？

「**特別の教科 道徳**」では、「豊かな人間性」を育てることを大切にしています。「豊かな人間性」を養うために、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を様々な面から捉え、自己の生き方についての考えを深め学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てることを目標としています。

＜豊かな人間性の要素＞

- ・美しいものに感動する心
- ・正義感・公正を重んじる心
- ・生命や人権を尊重する倫理観
- ・社会貢献の精神
- ・自立心、自己抑制力、責任感
- ・共生や寛容 など

いろいろな教材を通して、一人ひとりがよりよく生きるために、自分の心を見つめ、他者と関わりながら、考えや思いを広げていきます。一人ひとり顔や性格が違いうように、考えや思いも違います。授業での対話を通して、自分に合った生き方を考え、深めていきます。

○美川中学校での取り組み

道徳の授業だけでなく、学校での教育活動全体を通して豊かな人間性を育てていきます。今年度、本校では特に「**思いやり、感謝**」と「**相互理解、寛容**」を学校独自の重点項目として取り組んでいきます。

思いやり、感謝	思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深めること。
相互理解、寛容	自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。



今月は、裏面で1年生の道徳オリエンテーションの授業の様子についてお伝えします。

道徳オリエンテーション

<内容項目>

A 自分自身に関すること 自主、自立

<教材名> 「拓哉^{たくや}のなやみ」



拓哉は部活動の「入部届」を前にして、ずっと迷っていた。小学校4年生のときに地域のサッカーチームに入り、ずっと頑張ってきた。仲の良い友達もみんなサッカーを続けてきた仲間で、中学校でも一緒にサッカー部に入ろうと約束していた。

でも、仮入部で陸上部を体験してから、陸上部に入部したいと思うようになった。顧問の先生は厳しそうだが、練習の雰囲気はとてもよい。もともと持久走は好きだった。サッカーも好きだが、レギュラーとして試合に出たことは少ない。

友達との約束を破るのもいやだし、知っている人がいない中で3年間続けられるかと思うと、不安でしかたない。

<中心発問> 「拓哉はどうしたらよいのだろう？」

授業の様子



生徒のワークシートより

- ・陸上部に入ればよいと思う。3年間その部活に入るなら、友達に合わせるのではなく、自分がやりたい部活に入ればよいと思ったから。
- ・やりたいことに挑戦すればよいと思う。陸上部に知っている人がいないのならば、これから友達をつくっていけばいい。
- ・サッカー部に入部した方がよいと思う。3年間努力して、親しい友達と一緒に部活をした方が、中学校3年間続けられると思うから。
- ・道徳は人によって意見が違うため、対話をし、人の意見を聴くことで、自分の意見がゆれるのもおもしろいと思った。